

トラバース



トラバースは独特の難しさがある。スプーンカットをひろっていきける状況ならよいが、難しいときはキックステップを使用する。山側の靴底のアウトサイドや、谷側の靴底のかかとを蹴り込む気持ちで歩いてみよう



雪面に落ちている小石や木枝を踏みと安定することも

登り



登山靴だけで雪渓を歩く場合は、スプーンカットの底で平らになった部分に、靴底のできるだけ広い面を踏しながら歩く。傾斜の立った部分にうっかり乗るとたちまち滑って足もとをすくわれる。丁寧に足場を選んでいこう。滑らないスタンスを選ぶこと以外は、通常の斜面と同じように、正しいフォームと体重移動の方法で登下りする

スプーンカットに足をおく

日中で雪面が軟らかくなっているときは、スプーンカットを利用しながら歩ける。スプーンカットの平らな部分に靴底の前半分ぐらいを合わせて、鉛直方向に荷重して立つ。滑っているところ、滑りやすくなっているところは、凍り付いて滑るので注意が必要だ



無造作に足をおくと、傾斜が立った部分に靴底がかかっていることがある

雪面のフリクション

雪そのものからは、フリクションといえるほどの強い摩擦力は得にくい。しかし、雪渓上に落ちている岩石、土砂、木枝、枯れ草などは、フリクションが効いてスタンスとして利用できることも多い。ただし、しっかりとフリクションを効かせて立つたつもりが、靴底が動いたとたん中にスリップすることも。注意力を集中させて歩こう。

雪渓を登下りする際には、雪面の状態にたえず注意を払う必要がある。同じ時期であっても、ちよつとした天候の加減、湿度の高低で時々刻々と変化するのが雪渓だ。

登山靴のみで行動できるのは、雪が日照と高温である程度とけ、靴底の凹凸で雪面をしっかりとらえられる硬さのときに限る。同じ傾斜の雪渓でも、日なたと日陰では硬さも違う。この点を適当に判断するとスリップの原因となりにかぬない。

雪渓上で、自然が与えてくれる大切な足場がスプーンカットだ。サンカットとも呼ばれる、あたかもスプーンでえぐったようにできる凹凸は、平坦な部分をつくりだして、安定して足をおける場所を提供してくれている。ただし、このスプーンカットも平坦な場所には正確に足をおくこと。うっかり傾斜の立った部分に靴底がかかるのと、たちまち滑って足もとをすくわれることがある。丁寧に歩く慎重さが欲しい。

実際には、少しでも傾斜のあるところでは、キックステップをすることが多い。本格的なキックステップはできないまでも、上から靴底を雪面に強く落とす、軽くたたきつけるようにするなど、いろいろな方法で登下りすることができる。